



学校だより 11月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakawada/>

「運動会で輝いた子どもたち」

校長 高嶋 聡

爽やかな秋空の下、運動会が無事終わりました。昨年までのコロナ禍の制限がなくなり、多くの保護者、地域関係者の皆様、来賓の皆様にご参観いただけたことをとても嬉しく思います。敬老席にも多くの方にお越しいただき、温かい眼差しで子どもの活躍をご覧いただけたことも嬉しく思います。たくさんの方に温かいご声援をいただいたことが演技や競技の際の励みとなり、もっている力をしっかりと発揮できたのではないかと思います。ありがとうございました。

運動会の団体演技は、低・中・高別に2学年合同で行いました。一つ上の学年の姿を見ながら、一つ下の学年を支えながら練習に取り組むことは、運動会の練習を通しての子どもの成長に結びついていたと感じています。高学年のソーラン節では、6年生の演技の実行委員の子ども達を中心に、どのような演技を目指し、それを実現するには具体的にどのように取り組んでいけばよいのかを真剣に考え、自分達の思いが5年生に伝わるように練習を繰り返していました。このような6年生の姿を見た5年生はそこからの学びを今後の学校生活や来年度の運動会に生かしてくれるのではないかと期待しています。このような運動会に向けての過程がソーラン節の本番の姿に結び付いていました。私の目の前で演技をしていた児童は、演技直前に大きく深呼吸し、顔の表情をきりっと引き締め、自ら気合を入れていました。演技の動きからは自分の全力をすべて出し切ろうという強い気持ちを感じられました。ほんのわずかなミスにも悔しい顔をしていましたが、さらに自分を奮い立たせ、最後まで素晴らしい動きをし、満足した表情で演技を締めくくりました。成功させたいという強い気持ちや大変でも精一杯取り組んできた練習があったからこそ、そのような姿になったのだと思います。

今年は4年ぶりに全校競技を復活させました。午前開催ではありますが、児童の参加種目を何とか増やしたいということから実施を決めました。この大玉送りも児童の実行委員会を立ち上げ、どの様なルールにするか、安全にできるか、練習、本番の進行をどのようにするかなどを繰り返し話し合ったり試したりしながら、休み時間を使って準備を進めていました。その努力のおかげで全校児童と一緒に盛り上がる時間を味わうことができました。種目数を増やしたことから、当日の運営、進行の工夫でなんとか午前中に収まるようにと考えていましたが、当日は想定していた時間よりかなり早めに進んでしまい、ご迷惑をおかけした方もいると思います。大変申し訳ありませんでした。この反省は次年度に生かしてまいります。

運動会に向けての各ご家庭でのお子様への支援、ご理解とご協力、後片付けのお手伝い等、誠にありがとうございました。

10月25日に交通安全教室を実施しました。自動車の死角、安全な歩行の仕方、自転車の安全な乗り方やルールなどについて泉警察署や交通安全協会の方々に教えていただきました。日頃の登下校、放課後の歩行や自転車の様子はどうでしょうか。下校時は、開放的な気分になり、走ったり追いかけてこをしたりという姿を目にします。学校でも引き続き交通安全について声かけや指導をしてまいります。大切な子どもの命のため、各ご家庭でも繰り返し声かけをお願いいたします。また、登下校の見守りにつきましても、お時間があるときだけで結構ですので、少しでも多くの方にご協力をいただけたらありがたいです。

